

桃の節句を楽しんだ  
子ども園でひな祭り

3月2日、沢目子ども園でひな祭りが行われました。教室に飾られたひな壇の前に、先生からひな祭りに関する質問に元気よく答えていました。お待ちかねのおやつでは、ひな人形が乗ったかわいらしいケーキを美味しく食べて、桃の節句を楽しんでいました。記念撮影では小さなおひな様やお内裏様がひな壇の前に集合して、元気にポーズを取っていました。



ひな壇の前でハイポーズ

桃源郷で光のページェント  
手這坂 桃源郷冬まつり



一生懸命に作りました

3月4日、手這坂で桃源郷冬まつりが行われました。この祭りは、手這坂研究会のメンバーによって毎年開催されているもので、家族連れやアマチュアカメラマンがたくさん訪れました。この日は、午前中から、たくさんの方の会員やボランティアが集り、雪の灯籠を作成。雪不足のため、灯籠づくりが危ぶまれましたが、1100個もの灯籠が完成しました。夕方からは、「灯籠」に灯がともされ、訪れた人は幻想的な世界へ引き込まれていました。

本館集落営農組合通常総会  
「美しい本館を  
後世に残そう」

2月26日、本館集落営農組合の通常総会が夕映の館で開催され、組合員ら20名が出席し、事業計画や予算などについて話し合われました。本館集落営農組合は年々経営が厳しくなる小規模農業を地域の農家が協力し合って経営していこうと、昨年10月に14世帯が組織して設立したもので、町内では唯一の組織です。組合長の石岡隆士さんは「美しい本館を後世に残そう」というスローガンのもと、組合員が結集して、健康や環境に優しい農業を目指します。」と決意を新たにしました。



健康や環境に優しい農業を目指して

八峰町総合振興計画審議会  
が町長に基本構想を答申



町長に基本構想を答申

2月26日、八峰町総合振興計画審議会の須藤義孝会長と白鳥金悦副会長が役場を訪れ、町長に同計画の基本構想と前期基本計画を答申しました。この計画では「白神の自然と人と創るやすらぎのまち」を将来像に掲げ、平成18年度から10年間の施策などを盛り込んだものになっていて、審議会では昨年10月から5回にわたって審議を重ねてきました。町では、3月議会定例会に計画案を提案し、議決後、概要版を全戸配布することとしています。

子育て支援講演会  
「動物から学ぶ子育て」を  
開催

2月20日、ファガスで「動物から学ぶ子育て」と題した子育て支援講演会を開催しました。

講師で獣医師の今井康仁さんは、子どもを母親の袋の中で育てるカンガルーを例に、子離れ親離れのタイミングを説明。また、サル群れの例に「優れているサルには、その技を身につけようとたくさんのサルが集まります。子どもも大人から自分に足りない物を学習する能力が備わっているのです。そのチャンスを与えてあげてください。」と、親と子が積極的に社会へ出ることの重要性を説明しました。



講演を真剣に聞いていました

八峰町行政改革懇談会行政改革大綱に関する意見書を答申



行政改革大綱に関する意見書を町長に答申

2月19日、八峰町行政改革懇談会（石嶋芳人会長）の最終合合が開かれ、同日、行政改革大綱に関する意見書を町長に答申しました。

懇談会では、この大綱に町民の意見を反映させるため、昨年8月から5回にわたって議論を重ねてきました。意見書の内容は、住民と行政の協働、住民ニーズに対応した組織作り、健全な財政運営の推進など重点的に推進する8項目に分類。ゴミ収集体制をステーション方式に統一や現在11区ある投票区数の見直し、町職員数の抑制など、より具体的な69項目からなっています。町では、この答申をもとに3月中に大綱を策定します。

八峰町在住画家が描いた  
絵画展を開催しています

3月3日からファガス1階ロビーで八峰町在住絵画展が開催されました。この絵画展は、町の芸術文化協会の主催で開催されたもので、町内在住の画家が描いた油彩画や日本画、さし絵など15点の作品が展示されています。

岩に打ち付ける荒波や冬の手這坂、白神山地の紅葉、ハタハタ船などを描いた作品に訪れた人はじっくりと足を止めて見入っていました。この展示会は、3月12日までファガスで、15日から25日まで峰栄館で開催します。

- 工藤善一郎さん
- 大高 孝雄さん
- 大山 正則さん
- 藤田 ユミさん



足を止めて作品に見入っていました

観光情報研修会  
町内外の観光情報を再確認  
しました



町内外の観光情報を再確認

3月6日、町内を訪れる観光客により詳しく正確に情報提供し、そして味わいのある接客をすることで八峰町をPRしていくことを目的に、観光情報研修会がファガスで開催しました。

この日は町内の観光施設や直売所、公共施設などの関係者14名が参加し、八峰町や青森県の観光パンフレットを資料に観光施設や名所、取り扱っている特産品などを確認し合いました。

また、お客さんとのコミュニケーションの取り方については、「お客さんから観光地などを訪ねられたら『何もない』と答えてはいけません。地元の人にとっては何気ないものですが、町外の人にとっては感動を与えることがたくさんあります」と職員が説明し、観光を発展するにはお互いの連携が必要だと呼びかけました。